

The United States & Canadian Academy of
Pathology 100th ANNUAL MEETING ; February
26-March 4, 2011

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/27816

『学会見聞記』

第100回米国カナダ病理学会

The United States & Canadian Academy of Pathology
100th ANNUAL MEETING February 26-March 4, 2011

五十嵐 紗 耶

金沢大学大学院医学系研究科

形態機能病理学, 経血管診療学 博士課程3年

2011年2月26日から3月4日にかけてアメリカテキサス州サンアントニオで開催されました第100回米国カナダ病理学会 (USCAP) に参加させて頂きました。USCAPは北アメリカではもっとも規模の大きな国際病理学会で世界中から多数の研究者が集まりました。今回、形態機能病理学教室から中沼教授, アメリカ人留学生のMaylee Hsu先生, 中国人留学生の任香善先生とともに参加させて頂きました。

雪がちらつく寒空のなか金沢を出発し, 成田空港より出国。シカゴを経由してサンアントニオへ, およそ24時間かけてやっとのことで現地入り。長時間のフライト, 飛行機の乗り継ぎで日本との時差も何時間なのかわからぬまま, ぼーとした頭でサンアントニオ空港を出て, まず驚いたのはその気候でした。ネットで事前に確認して日本よりは暖かいとの情報は得ていたのですが, 道行く人々は, 半袖, 短パン…ノースリーブ?! (若干, 日本人との体温温度が違うように思われましたが…) 非常に暖かく, とっても気持ちのよい天候に迎えられました。

今回の学会の開催地サンアントニオはテキサス州の南に位置しており, メキシコ国境まで車でわずか3時間。アメリカ合衆国にしながらメキシコの文化を堪能できる街で, 陽気なヒスパニック系はとても親しみやすく, 西海岸や東海岸とはまた違った魅力に溢れていました。学会会場のHenry B. Gonzalez Convention Centerはダウントウンエリアに位置し, 近くにはテキサス独立戦争時の歴史的建造物のアラモの砦がそびえ立っています。また学会会場からはサンアントニオ川沿いの美しい散歩道River Walkが整備されており, 街並みを楽しみながら会場に通うことができました。ダウントウンエリアはネームタグをぶら下げた学会関係者であふれ, 今回の学会の規模の大きさを改めて実感しました。

今回, 私は肝胆脾の部門で半日間のポスターセッションに参加させて頂きました。演題はAberrant expression of pancreatic stem cell markers in the biliary tree relates to intrahepatic cholangiocarcinogenesis in hepatolithiasis—近年, 胆管癌の前癌病変として注目されているbiliary intraepithelial neoplasia (BilIN) 病変を対象とし, 胆道と脾に発生する疾患の類似性・共通性に注目して, PanIN-脾癌発癌モデルにおいて報告されている種々の胎児期関連因子, 幹細胞関連マーカーの発現変動に関して報告しました。非常に多くの先生方に興味を持って見て頂けたことを光栄に思いましたが, 想定以上の質問攻撃に息の詰まる思いでした。研究内容についてはもちろん, 実験手法について, 今回の発表内容のサマリーを簡単に教えてほしい等, 次から次へと矢継ぎ早に質問され, oralの発表で5分間の質問時間に耐えるのとど

ちらが楽だったのだろう…と大それたことを考えてしまうくらいに非常に長い時間に感じられました。

一般口演会場では, 広い会場にもかかわらず満席で立ち見の人であふれ, 予定の時間を超過してもかまわず繰り広げられる活発な質疑応答には圧倒されました。また, このような国際的な場で最先端の情報を得るチャンスを無駄にしないためにも, 英語がいかに重要か, あらためて思い知らされました。

無事発表を終えた夜は, 同行したアメリカ人留学生のMaylee Hsu先生がかつてMassachusetts General Hospitalでレジデントとして研修していた時の同僚たちと一緒に食事を楽しみました。同世代の気楽な夕食会とはいえ, native Americanに囲まれての食事です。再び頭をフル回転させての英会話。完全に彼女たちの勢いに飲み込まれてしまいましたが, 異文化を思う存分, 体感することができました。勧められるがままに注文したのは, アメリカサイズと比してもさらに特大サイズといわれる“テキサスサイズ”のメキシカンプレート。タコスやエンチェラダなどメキシコの代表的料理の寄せ集めなのですが, 想像以上のビッグサイズ! 明日のことは考えずに動けなくなるまで食べ続けるのが流儀だとのこと。最後の最後まで圧倒され続けることとなりました。

あっという間に時は過ぎ最終日。振り返ってみると移動に費やす時間の方がよっぽど長い行程となりましたが, 密なスケジュールで充実した時間を過ごすことができました。

最後になりましたが今回学会に参加するにあたり, 非常に多くの方に支えていただきました。中沼教授を始め形態機能病理学教室の先生方には多大なるご指導をいただきました。また, 家族の理解, 母の協力なくしては実現し得なかったと実感しております。この場をかりて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

